

平成29年度(前期) 白河総合支援学校 学校評価アンケート集計結果

平成29年10月12日

教職員	回答 40名/40名 100%				保護者	回答 97名/99名 98%				生徒	回答 99名/99名 100%			
	そう思う	大体そう思う	あまりそう思わない	そう思わない		そう思う	大体そう思う	めまわって思わない	そう思わない		そう思う	大体そう思う	めまわって思わない	そう思わない
1.生徒は自己目標に向かって学習に取り組んでいる	23.1%	71.8%	5.1%	0.0%	1.子どもは目標に向かって学習に取り組んでいる	43.7%	44.7%	11.7%	0.0%	1.今、現在の自分の目標がわかっている	45.50%	45.50%	4.00%	5.10%
2.生徒は満足感や達成感を持ち、専門教科(地域協働)の学習に取り組んでいる	23.1%	76.9%	0.0%	0.0%	2.子どもは専門教科(地域協働)の授業に満足感や達成感を感じている	38.5%	56.7%	4.8%	0.0%	2.目標に向かって学習に取り組んでいる	48.50%	40.40%	8.10%	3.00%
3.生徒は満足感や達成感を持ち、教科の学習に取り組んでいる	5.1%	76.9%	17.9%	0.0%	3.子どもは教科の授業に満足感や達成感を感じている	22.8%	58.4%	18.8%	0.0%	3.専門教科(地域協働)の授業で「できた」「うれしかった」ことがある	55.60%	34.30%	6.10%	4.00%
4.生徒は満足感や達成感を持ち、職場等実習に取り組んでいる	35.9%	64.1%	0.0%	0.0%	4.子どもは職場等の実習に満足感や達成感を感じている	35.6%	54.8%	6.7%	2.9%	4.教科の授業で「できた」「うれしかった」ことがある	42.40%	34.30%	14.10%	9.10%
5.生徒に働く意欲や働くために必要な姿勢や態度が育ってきている	17.9%	71.8%	10.3%	0.0%	5.子どもに働く意欲や働くために必要な姿勢や態度が育ってきた	37.3%	46.1%	12.7%	3.9%	5.職場実習で「できた」「うれしかった」ことがある	59.60%	32.30%	4.00%	4.00%
6.生徒の良いところを伸ばすことを意識して指導している	51.3%	46.2%	2.6%	0.0%	6.子どもには良いところがある	69.3%	30.7%	0.0%	0.0%	6.働くことに必要な意欲・姿勢・態度が身についてきた	33.30%	55.60%	9.10%	2.00%
7.子どもの自己有用感が高まってきている	12.8%	79.5%	5.1%	2.6%	7.子どもの自己有用感(自分はだれかの役に立っているという感覚)が高まってきている	23.9%	57.8%	18.3%	0.0%	7.自分には良いところがある	39.40%	31.30%	20.20%	9.10%
8.生徒が一生懸命に取り組める活動を用意している	25.6%	71.8%	2.6%	0.0%	8.子どもには一生懸命になれる活動がある	39.6%	46.2%	14.2%	0.0%	8.自分にはだれかの役に立っていると思う	24.20%	33.30%	28.30%	14.10%
9.生徒のことが理解できている	10.3%	82.1%	7.7%	0.0%	9.子どものことが理解できている	13.2%	76.4%	9.4%	0.9%	9.自分には一生懸命に取り組んでいる活動がある	49.50%	33.30%	13.10%	4.00%
10.生徒の自己肯定感を高めることを意識して指導に当たっている	30.8%	66.7%	2.6%	0.0%	10.子どもの自己肯定感(自分はかけがえのない大切な存在なのだという感覚)が高まってきている	18.3%	64.2%	16.5%	0.9%	10.自分のことを理解してくれる人がいる	39.40%	34.30%	19.20%	7.10%
11.生徒は友達の考えや個性を尊重し、認め合っている	12.8%	69.2%	17.9%	0.0%	11.子どもは友達に対して思いやりをもち、認め合っている	38.8%	54.4%	5.8%	1.0%	11.自分にはかけがえのない大切な存在であると思っている	33.30%	23.20%	31.30%	12.10%
12.キャリアプランに基づいて計画的な指導や支援を行っている	22.5%	62.5%	15.0%	0.0%	12.子どもの目標や学習計画に基づいた計画的な指導や支援がなされている	28.3%	66.0%	5.7%	0.0%	12.友達の考えや個性を理解し、認め合うことができる	37.40%	48.50%	10.10%	4.00%
13.生徒は自分から積極的に挨拶をしている	15.0%	65.0%	20.0%	0.0%	13.子どもは自分から積極的に挨拶をしている	26.7%	58.4%	13.9%	1.0%	13.先生は「何のために勉強するか」をわかりやすく教えてくれる	52.50%	33.30%	6.10%	8.10%
14.生徒の得意なことを把握している	12.5%	67.5%	20.0%	0.0%	14.子どもは自分の得意なことに気づいている	28.4%	46.1%	23.5%	2.0%	14.自分から元気よく挨拶ができる	41.40%	30.30%	20.20%	8.10%
15.生徒が適切な食生活を送れるよう指導している	12.8%	59.0%	25.6%	2.6%	15.子どもは朝ごはんをきちんと食べている	57.8%	26.5%	10.8%	4.9%	15.自分の得意なことがよくわかっている	45.50%	35.40%	12.10%	7.10%
16.生徒に衛生に関する指導や支援を行っている	17.5%	77.5%	5.0%	0.0%	16.子どもには日常的に清潔にするように促している	49.5%	40.8%	9.7%	0.0%	16.朝ご飯をきちんと食べている	56.60%	21.20%	11.10%	11.10%
17.生徒は学校の決まりや約束を守って学校生活を送っている	17.5%	72.5%	10.0%	0.0%	17.子どもは学校の決まりや約束を守って学校生活を送っている	43.7%	50.5%	5.8%	0.0%	17.清潔にすることを心がけている(例えば、入浴、着替え、汗をふくなど)	70.70%	25.30%	4.00%	0.00%
18.生徒に家庭内で決まった役割を担うように促している	10.3%	71.8%	17.9%	0.0%	18.子どもには家庭で決まった役割があり、実行している	30.8%	49.0%	17.3%	2.9%	18.学校のきまりや約束を守っている	59.60%	30.30%	9.10%	1.00%
19.企業との連携・協働による学習環境が設定できている	41.0%	56.4%	2.6%	0.0%	19.企業との連携・協働による学習環境が設定できている	33.3%	58.3%	7.4%	0.9%	19.家庭で決まった役割(例えば、お手伝い)があり、実行している	43.40%	34.30%	16.20%	6.10%
20.地域との連携・協働による学習環境が設定できている	33.3%	61.5%	5.1%	0.0%	20.地域との連携・協働による学習環境が設定できている	28.4%	57.8%	13.7%	0.0%	20.企業の協力があり、職場実習などができていることに感謝している	70.70%	26.30%	2.00%	1.00%
21.休日等に実施されている各種スポーツ、文化的催しに参加するように生徒に促している	17.9%	61.5%	17.9%	2.6%	21.子どもは休日にリフレッシュできる活動をしている	31.4%	48.0%	16.7%	3.9%	21.地域の協力があり、地域との活動ができていることに感謝している	58.60%	29.30%	6.10%	6.10%
22.生徒や保護者に短期目標や評価について、適切に伝えている	17.9%	71.8%	10.3%	0.0%	22.短期目標や評価について、学校は保護者に適切に伝えている	41.0%	48.6%	8.6%	1.9%	22.休日は趣味やスポーツ、サークル活動などにとりくんでいる	37.40%	24.20%	11.10%	27.30%
23.生徒や保護者からの個別の相談に適切に対応している	17.9%	74.4%	7.7%	0.0%	23.個別相談について、学校は保護者に適切に対応している	43.5%	49.1%	6.5%	0.9%	<b>【生徒】</b> ①全体的に肯定的な評価に推移しており、生徒が学校や家庭での学習や生活で肯定的な評価をしながら生活していることがうかがえる ②1・2・3で90%近い生徒が肯定的な評価をしており、目標を持って専門の授業や職場実習を行っていることがうかがえる ③16で78%が朝食摂取、17から96%の生徒が清潔にすることを意識していることがうかがえる ④20・21から、企業や地域の方の協力に対して多くの生徒が感謝の気持ちを持っていることが顕著に表れている。 ⑤7・8・11は他の項目に比べると否定的な評価の割合が高いが、肯定的な割合も増加している。 ⑥18から、学校のきまりについてはほぼ90%の生徒が守っているという意識を持っていることが分かる				
24.生徒、保護者、地域、企業等に本校の教育の趣旨や目的を理解できるように伝えている	20.5%	71.8%	7.7%	0.0%	24.保護者として学校の教育の趣旨や目的を理解している	42.9%	50.5%	3.8%	2.9%					
25.保護者に、参観・懇談・学習会等に積極的に参加するように促している	20.5%	64.1%	12.8%	2.6%	25.保護者として、参観・懇談・学習会などに積極的に参加している	36.2%	29.5%	28.6%	5.7%					
<b>【教職員】</b> ①ほとんどの項目で「大体そう思う」という回答が多く、各項目についてやりきっているとまではいえない状況であることがうかがえるが、昨年度より肯定的な評価が増え、教職員の努力や意識・達成感が高まっている ②7の「そう思う」が増えて、意識して取り組んでいる。→ 生徒の7にも連動している可能性がある。 ③10の「自己肯定感を高める指導」を意識していることがうかがえる。→ 生徒の11にも連動している ④19・20から企業や地域と協働して生徒の学習を進めようとする意識が高い。					<b>【保護者】</b> ①6で否定的な評価がないのは、はじめてである。 ②多くの項目で保護者は70%~90%が肯定的な回答をすることから、学校の教育方針や教育実践に対して概ね肯定的に評価していることが分かる。 ③6と14から多くの保護者が子供の良いところがあることを認め、また、子供の良い変化を感じていると読み取れる。 ④7・10で昨年度より肯定的な評価が多く、生徒の自己有用感や自己肯定感について肯定的な評価が多く、子供の自己有用感や自己肯定感が高まっていると感じる保護者が多いことが分かる。									
<b>【3者のまとめ】</b> ①4の教科学習に関して、専門教科や職場実習に比べて教科学習での生徒の達成感がやや低いが、毎年、その差が小さくなっている。 ②生徒8では生徒の自己有用感については他の項目に比べても否定的な回答がやや多く、保護者・教職員が思うより生徒は自己有用感を持っていないことがうかがわれる。 ③生徒10で、教職員・保護者の肯定的な評価が生徒よりも高く、生徒を理解しようとする思いの強さがうかがえる。 ④生徒14より自分からの挨拶については、教員・保護者の評価より、できていないと感じている生徒が多い。 ⑤生徒20・21より企業の協力や地域の協力に関して、生徒・保護者・教職員の評価が一致しており企業での実習や地域協働に取り組む意識が学校全体で共有されていることがうかがえる。特に生徒自身は自らの経験から評価が高い。														